

DAITO ROTARY

OSAKA JAPAN

CLUB WEEKLY BULLETIN

第2660地区
大東ロータリークラブ



- 事務所
〒574-0046 大東市赤井1丁目2-10
ポップタウン住道本館4階
TEL: 072-875-1200
FAX: 072-875-0590
E-mail: office@daito-rc.org
http://www.daito-rc.org/
- 例会
毎週火曜日 12時30分～1時30分
〒574-0076 大東市曙町4-6
大東市民会館 4階「大会議室」
TEL: 072-871-0001

◆4つのテスト◆

言行はこれに照らしてから

- ① 真実かどうか？
- ② みんなに公平か？
- ③ 好意と友情を深めるか？
- ④ みんなのためになるかどうか？



ROTARY:
MAKING A
DIFFERENCE

創立 1967年12月26日

- 会長 橋本 正幸
- 幹事 佐藤 多加志
- 会報委員長 森岡 信晶

大東ロータリー会長テーマ

「半世紀“2067”への架け橋
奉仕の継承と変革」

2017年～2018年度
国際ロータリーのテーマ

ロータリー：変化をもたらす

第2660地区ガバナー方針
「個性を活かし、参加しよう」

国際ロータリー会長

イアン H.S. ライズリー

片山 勉

平成29年8月1日

No.2388

H29.7.25(No.2387の例会記録)

今週の予定 (8月1日)

「会員増強・拡大月間に因んで」
小川 芳男 会員増強委員長

次週の予定 (8月29日)

「クラブ奉仕部門について」
中 恒夫 会員

先週の例会報告

◆ 出席報告 (7月25日分)

会員数 40名 出席数 33名 欠席者5名
特定免除 1名 その他免除 1名
出席率 86.84%

前々回7月11日分

ホームクラブの出席者 33名 94.29%
メイクアップの結果 35名
特定免除4名 その他免除 1名
欠席者 0名 修正出席率 100.00%

お知らせ

- ・8/3-6 I.A.C海外研修 香港・マカオ
- ・8/8 休会
- ・8/15 休会
- ・8/22 周年 第6回実行委員会
- ・8/29 クラブ奉仕・ロータリー情報
情報集会 18:00～
- ・9/2 地区 財団セミナー
- ・9/2 地区 クラブ職業奉仕委員長・地区委員
合同勉強会 10:00～
- ・9/17 大東市市民まつり

ニコニコ箱

後面に記載



早いもので、7月の最終例会です。インターアクト例会、会長幹事会、発達支援センター夏祭り、インターアクト海外研修説明会、周年実行委員会とあっという間の7月でした。メンバーの皆さんに支えられ、次々と時間が過ぎていきました。

前週の例会終了後に、第5回周年実行委員会が行われました。委員会では各部門からの進捗状況の報告を伺う中で、改めて記念式典まで4カ月と迫っていることを再認識致しました。周年実行委員会へは、私の想いについて次のように伝えさせていただきました。



1. これまでの事業の補完

私たちは、先輩諸兄の輝かしい活動の功績を刻まれてきた歴史を「伝統」として受継いで参りました。伝統を尊ぶ故に、未来に育むべき「真のロータリー精神」と揺ぎ無い「奉仕の精神」を継承して行かなければならないと、重く受け止めています。

今半世紀という時代が流れ、先輩諸兄の奉仕活動が現状と、この先の「時代背景」に照らし合わせて、活動の想いが十分達成されているのかを検証し、これまで行われた事業の補完をすることが、継承することの一助となると考え、必要ではないかと思っております。

2. 事業の一本化

これまで節目々で、記念事業が行われて参りました。その時々々の時代背景と会員皆様の想いが事業に取り入れられていると考えます。会員数が減少した中で、通常年度の事業に加えて、周年事業を行う事が会員皆様への負担が大きいことは承知いたしております。また、財源につきましても限りがあります。

このような事情から、50周年年度の事業について、周年時事業と通常年事業の一本化を図り、負担軽減と経費削減に努めたいと考えております。周年の事業に冠を付け一本化することで、会員の皆様がより一層一致団結して、取り組んでいただけるのではないかと考えています。

インパクトがあり社会に役立つ事業になることで、ロータリアンだけに留まらず、地域社会に「大東ロータリークラブ」の奉仕の精神を理解していただけるものと確信いたしております。

3. 大東市への奉仕

クラブは、これまでも幾度となく大東市に独自の事業を行ってまいりました。この50年という節目に今一度、大東市への奉仕活動を行い、地元で大東ロータリークラブの存在感を示すことが、次の50年に向けての一步となると思っております。以上の三点をお示しさせていただきました。

委員の皆様は、私の想いにご配慮していただき、次のように進めていただいております。

総務財務部門 これまで行われてきた周年時の状況を整理し、案内状の作成、案内状の送付先を精査していただいております。財務につきましては、次回の理事会において昨年度決算の承認を受け、周年への繰越金

額が確定します。これにより、50周年の収入予算が確定いたします。

友好姉妹部門 台湾からの参加人数が44人内会員25人と報告がありました。瘦溪RCの滞在される詳しい内容につきましては、現在調整を行っていただいています。また、ネパールのカトマンズ西RCとの友好調印につきましては、8月にウダヤ氏が来日されますので、打合せを行う予定です。

事業部門 大東市民に親んでもらえインパクトのある、50周年に相応しい事業を検討していただきました。これまで7回に渡る部門会議を開いていただき、大東市の玄関前に飯盛城城氏の「三好長慶公」の銅像を建立することと致しました。8月25日に最終の打合せを行い、10月には完成を迎える予定です。

式典部門 会場となる帝国ホテルの部屋を押さえていただき、二次会等の手配も行っていただきました。現在、式典の進行についてタイムスケジュール等を作成し、調整を行っていただいています。

記念誌部門 記念誌に掲載する資料を集めていただき、全体の構成を決めていただきました。今後は周年事業の記録を撮っていただいているところです。今年度最初の例会終了後、先輩へのインタビューを行い、記念誌の1ページが完成致しました。

以上が周年実行委員会の進捗状況です。

今後は、適時皆様にご報告申し上げたいと考えています。



大東RC創立50周年 第6回実行委員会 開催のご案内

大東RC創立50周年 第6回実行委員会 を開催させていただきます。各部門の委員長・副委員長の方はご参加よろしくお願い致します。

日 時 平成29年8月22日（火）例会終了後

場 所 市民会館 例会会場

委員会報告

◎ニコニコ箱委員会

- ・結婚記念日 自祝
- ・例会出席 感謝
- ・ビシッ！！
- ・遅刻 お詫び
- ・2回連続欠席お詫び
- ・50周年実行委員会 予算承認ありがとうございました
- ・東村会員、中野隆二会員おつきあいありがとうございました
- ・今日は初S.A.A 不慣れですがよろしくお願ひします
- ・中嶋さん先日も大変お世話になりありがとうございました

西山 潤一 委員長

福富 経昌 君

橋本 正幸 君

佐藤 多加志君

中嶋 啓文 君

福富 経昌 君

木村 克己 君

中野 秀一 君

東村 正剛 君

感謝 中野 隆二 君



◎社会奉仕委員会

東村 正剛 委員長

先週例会時に集めさせていただいた「九州北部 豪雨災害 義捐金」は合計48,000円となりました。先週末地区へ送金済みです。

会員皆様の温かいお気持ちに感謝申し上げます



◎ゴルフ同好会

空門 満也 キャプテン

2017-18年度ゴルフ同好会参加希望を本日にて締切りとさせていただきますので、よろしくお願い致します。



「 地域包括ケアシステムについて 」

岡井 康弘 会員



本日は、地域包括ケアシステムについてお話をさせていただきます。

病院に勤務しておりますが、病気の話については会員の医師の先生方に様々な機会に話を聞かせていただくこともあるかと思っておりますので、私は高齢化社会において、とりわけ高齢化社会の第1の関門である団塊の世代がすべて75歳となる2025年問題（その

後も高齢者は増加）、社会保障費の増加という背景を受け、今後の医療・介護の向かおうとする方向性の話をさせていただきます。

地域包括ケアシステムとは、あまり一般的には知られていないのではないかと思います。医療・介護・行政の高齢者福祉担当者の間では知らない人はいないと思います。まさに国の医療・介護政策は高齢者の在宅生活（病院で療養⇒在宅で療養）を主とする地域包括システム構築へとあらゆる手段で推進をされています。来年の診療報酬と介護報酬の同時改定でも推進への政策誘導がされることでしょう。

まず、すでに高齢者人口の増加にむけた病院の機能分化が始まっていますので、簡単に病院について話させていただきます。

皆さんにとって病院はどこも同じなのでしょうか？大きい⇔小さい、新しい⇔古い、なのでしょうか。実際、病院の機能とは、大阪では近畿厚生局（地方厚生局）への施設基準の届出をし、医師をはじめ医療スタッフが様々な処置や医療機器を使用し診療を行っています。したがって病院の規模ではなく施設基準の届出内容によって病院の機能が決まっています。もっとも施設基準として病院の根幹をなすものには入院基本料がありますが入院患者さんの数と看護師1人の比率が7:1、10:1、13:1、15:1と看護師数によって入院基本料が変わります。当然、患者さんの数に対して看護師数がより多い方が診療報酬は高くなります。入院基本料7:1の届出病院は重症度（医療・看護必要度）の高い患者さんを治療するために入院する役割をもちます。ところが4年程前までは重症度の高い患者さんが少なく看護師だけが多い、入院基本料7:1の病院も結構あったのも事実です。実態に合わない高い診療報酬が支払われていました。

現在は多くの病院で電子カルテが使用され、また診療報酬の請求についても電子化されています。現在、厚生労働省はこれらのビッグデータを集約・分析しながら

近畿厚生局(地方厚生局)への施設基準の届出によって決まる

・病院の根幹をなすものとして


一般病棟入院基本料

7対1	18日以内	15,910円/日
10対1	21日以内	13,320円/日
13対1	24日以内	11,210円/日
15対1	60日以内	9,600円/日

7対1病院のハードル上がる

- ①医療・看護必要度 25%以上
- ②在宅復帰率 75%以上
- ③平均在院日数 18日以内

厚生労働省の医療費削減の施策（医療費の適正化）



ら全国の病院を明確に機能分化しようと推し進めています。簡単に言いますと入院基本料 7:1 の病床を減らし、高齢者人口の増加に対応させ、慢性期病床を増加させることです。病院の重症患者の割合が 25%以下の 7:1 の病院は、7:1 以外の一般病床や慢性期病床などの病床に変えなくては病院が維持できなくなります。

まさに政策による病院の機能分化が加速しています。しかし全体の病床数としては 2025 年には減少しているでしょう。2025 年以降、高齢者が必ず病院で終末を迎えることができるとは断言できません。何処で終末を迎えるかが選択されることとなります。

高齢者人口の増加による社会保障費を抑制するため病院から在宅への医療・介護政策の推進のスキームが「地域包括システム」の構築です。現在、そのための取り組み

が国、地方自治体、医療機関、介護事業者、医師会などが様々な形で取組まれています。地域包括ケアシステムとは、高齢者の方に対し、プライバシーと尊厳が十分に守られた「住まい（自宅・高齢者住宅）」が提供され、その住まいにおいて安定した日常生活を送るための「生活支援・福祉サービス」があること、また専門職による「医療・看護」「介護・リハビリテーション」などが互いに連携しながら有機的な関係を担っていくことにより安心して生活をしていただくことを目指し推進されています。ただ、本人・家族の選択と心構えも必要となります。在宅での終末においては、一人で旅立つことも想定内です。今後、私たちも自分の事と考えなくてはならない時代が来ました。

私の勤務する仁泉会病院も 2 年程前に地域包括ケア病床を設置し、地域医療や地域包括システムへの参画をすべく積極的に取り組んでいます。これからも宜しくお願い致します。有り難うございました。

日本の人口推移

社会保障人口問題研究所
(位 千人)

	平成22年	平成37年	増減
総人口	128,057	120,659	7,398減
高齢者人口	29,246	36,573	7,327増
内、後期高齢者	14,072	21,786	7,714増

北河内区域の推計人口と高齢者の状況

国立社会保障人口問題研究所

人口	2010年	2025年
77,073人減少	1,185,935	1,108,862
65歳以上の人口	265,731	341,621
75,890人増加	2025年	341,621
うち75歳以上	2010年	101,397
113,928人増加	2025年	215,325
高齢化率	2010年	22.4%
	2025年	30.8%

